

成田セイリユウ

滋賀県議会議員（大津市選挙区）

成田セイリユウ プロフィール

1974年8月15日大津市生まれ
唐崎小、唐崎中、膳所高卒、龍谷大学法学部政治学科卒業
同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了
宅地建物取引士 / 大津市消防団地域防炎指導員
滋賀県監査委員（議会選出） / 土木交通・警察・企業常任委員会 委員
第11回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞受賞
〒520-0106 大津市唐崎 1-20-28 mail@narinari.net

未来への責任



第72回 全国植樹祭
～木を植えようびわ湖も緑のしずから～



土木交通・警察・企業常任委員会
県内調査（大型警備艇 たかしま）

NewsReport Vol.68 2022 年秋号

新型コロナウイルス感染症の長引く影響や、ウクライナ情勢を発端とする円安・原油高・物価高により、日本の経済は大きなダメージを受け続けております。9月定例会議において、感染症対策と両立する社会経済文化活動を前提に、事業の重点化を進めるとともに、物価高騰に対しても、原材料価格や電気料金などコストの増加に対し、社会・経済情勢や各分野の価格転嫁の状況、国の動向を見極めながら、適切に対応していくと、三日月知事は述べられました。



また、地球規模で気候変動の影響が生じている中、生物多様性に富んだ災害に強い地域づくりも必須の課題であります。笑顔が輝くまちを築くためにも、引き続き、議論を深めて参ります。

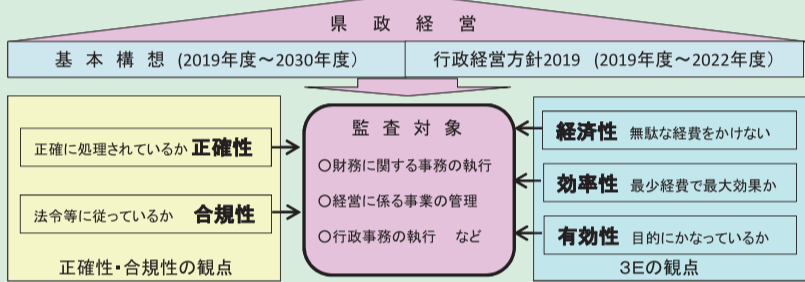
成田 政隆

滋賀県監査委員に就任しました。

○監査委員の役割

監査委員は、県行政の公正と能率を確保するため、主に県の財務に関する事務の執行について、次のような観点から県の行政を監査（チェック）する独立の機関です。

- ① 県の収入は有効に使われ、財産は適正に管理されているか、支出は適切になされているか
- ② 事業は効果的・効率的に進められているか
- ③ 事務は法律や条例に従って適正に行われているか



生物多様性について

成田 「生物多様性のための30by30アライアンス」において、県内企業や自治体、NPOとともに、積極的に参加するとともに、自然共生サイト（仮称）への認定に向けた準備や、OECM（保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）のさらなる拡充に向けた取り組みを進めていくべきだと考えるが？

琵琶湖環境部長 県内企業等との連携を図りながら生物多様性の取組を進めていくことが重要。今後アライアンスへの参加を前向きに検討。県としては、県内でのサイトの認定を促進するため、しが生物多様性取組認証制度の認証事業者等に対して、広く周知を図って参りたい。

成田 森林を切り開いた再生可能エネルギー開発における課題が大きくなっているが、保護・保全に向けた対策は？

琵琶湖環境部長 森林内で設置された発電施設の一部については、環境に影響を与えているものもあると認識。CO2ネットゼロ推進の観点からも、再生可能エネルギーの導入を図ることは重要であるが、森林は二酸化炭素の吸収源であると同時に水源のかん養、生物多様性の保全、山地災害の防止など多面的機能を有しており、環境との調和が必要である。風力発電や太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入にあたっては、関係法令や国が定める事業計画策定ガイドライン等の遵守はもとより、森林法における林地開発許可制度の適

切な運用を行うことによりまして、自然環境保全との両立を図って参りたい。

成田 ニホンジカの生息動態や被害の状況、今後の対策は？

琵琶湖環境部長 ニホンジカの生息状況は、平成25年度をピークに減少し、令和元年度の生息数は約41,500頭と推定をしている。農業被害は、平成22年度をピークに1/10程度まで減少しているが、森林においては下層植生の衰退が続いていることから、個体群管理、被害防除、生息環境管理の対策を推進して参りたい。

成田 アライグマやハクビシン、ヌートリア等の外来獣に対する防除指針等の策定にむけて検討すべきだと思うが？

琵琶湖環境部長 アライグマ等の外来獣の早期の駆除は非常に大切。指摘のあった防除指針等、策定されている団体もある中で、事例の横展開をはかることによって市町とともに取組を進めて参りたい。

成田 ESG投資の拡大を図っていくことも重要であるが、今後の展開は？

三日月知事 ESG投資は、環境保全と経済発展とともに、企業には安定した投資の確保はもとより、企業価値の向上、同業他社との差別化による競争力の強化などメリットが多い有益な取組であると認識。温室効果ガス排出量等の気候変動分野に着目したESG投資が主流となっているが、今後、生物多様性分野への広がりも期待。

これからの図書館のあり方について

成田 「これからの滋賀県立図書館のあり方」が策定されてから、今年度で5年が経過する中、目指す図書館像実現のために施策を重点的に取り組まれてきたが、これまでの成果と課題は？

教育長 県内の公共図書館職員に向けた研修の充実や、視覚等の障害のある人や外国にルーツを持つ方に向けてのサービスの充実に努めてきた。一方、コロナ禍の影響で図書館での多くのイベント等が中止となり、関係部局との連携による展示や図書館からの情報発信については、課題がある。今後はデジタル技術の活用等による非来館型のサービスの充実に努めていく。

成田 子ども読書活動支援センター機能を、滋賀県立図書館に移管するとともに、市町立図書館や学校図書館との

連携をさらに促進してはどうか？

教育長 滋賀県において、子どもの読書活動の推進には、図書館、文庫活動、読み聞かせボランティアの皆様、市町との連携をさらに深めるとともに、教育委員会のみならず、庁内の関係部局と密接な連携を図ることが必要であることから、現在、教育委員会事務局内にその機能をもたせている。今後、本県における子どもの読書活動をより一層推進する上で、市町立図書館、学校図書館との連携は非常に重要であると認識をしており、どこに子ども読書支援センター機能を持たせることが効果的なのか考えて参りたい。

成田 滋賀県立図書館に対する現状や課題をどのようにとらえられているのか？

三日月知事 コロナ禍の中、令和2年度の調査において、県民1人当たりの貸出冊数で全国一位になるなど、県立図書館だけでなく滋賀県全体が、全国的にも高いレベルの図書館サービスを行って頂いている。今後さらに、子どもたちや障害のある方など、これまであまり利用して頂けなかった方に図書館サービスを活用して頂くこと、図書館を利用して頂くことが課題であり、可能性だと考えている。

りの貸出冊数で全国一位になるなど、県立図書館だけでなく滋賀県全体が、全国的にも高いレベルの図書館サービスを行って頂いている。今後さらに、子どもたちや障害のある方など、これまであまり利用して頂けなかった方に図書館サービスを活用して頂くこと、図書館を利用して頂くことが課題であり、可能性だと考えている。

成田 今後の図書館施策について、どのように展開していこうとされているのか？

三日月知事 県立図書館としても、デジタル技術も活用しながら、全ての県民の方々に利用して頂けるよう、一層のサービスの充実に努めていきたい。また、滋賀ならではの公共立図書館のネットワークをさらに進化させるとともに、県や市町がそれぞれ築いてきた図書館以外

の団体とのつながりを、例えばまちづくりにも活かせるような取組を進めるといふことであるとか、図書館行政の基盤となる人材育成にも努めていきたい。

成田 （仮称）こどもとしゃかんの設置にむけた知事の想いは？

三日月知事 未来を担う子どもたちを真ん中に置いて、子どもたちのための図書館、滋賀ならではの「こどもとしゃかん」というものを、ソフト、ハード両面から、これは一か所に拠点として作るということよりもむしろ、広く子どもたちの読書活動を応援するような、そういった機能も含めて、広く考えていきたい、多くの皆さんと一緒に考えていく、そういうテーマにしていきたい。



子ども図書館 調査

○福岡県立子ども図書館

福岡県立図書館の隣にあった県議員会館を1993年より県立図書館の別館「子ども図書室」として活用していたが、2001年に増改築し、親子読書ルームやおはなしの部屋の設置などを行い、翌2002年から子ども図書館として運用をなされています。

旧建物の改築のための、2階以上は書籍の重みに耐えられないことから、研修室や学習室として利用をされています。

○北九州市立子ども図書館

子どもの読書活動を推進する拠点として「北九州市子ども読書活動推進条例」に基づき整備され、地下1階は乳幼児期中心の絵本・お話の本、子育てに関する本、赤ちゃんの駅などが備えられ、1階は児童書や図鑑類、中高生向けの書籍などが置かれております。加えて、2階は子どもの読書に関する本、児童文学や作家に関する



福岡県立子ども図書館



北九州市立子ども図書館

本など、教員が活用できるスペースとなっております。

また北九州市立図書館の地区館・分館には「子どもの本のへや」が備えられており、子どもたちがよく読む本を親子で楽しめるように、さらには子ども図書館を中心とした連携がなされていると伺いました。

○国立国会図書館国際子ども図書館

国立国会図書館法に基づき、国立の児童書専門図書館として、国内外の豊富な資料と情報資源を活用するとともに、子どもの本に関わる活動や調査研究を支援をされています。

また「児童書専門図書館としての役割」「子どもと本のふれあいの場としての役割」「子どもの本のミュージアムとしての役割」を果たしておられます。

○こども本の森 中之島

安藤忠雄氏の設計の下、「こどもたちの素直な眼差しと感受性を大切にする「物語」の聖地をつくる。」「こどもたちに多様な本を手にとってもらい、無限の創造力や好奇心を育ててほしい。」「自発的に本の中の言葉や感情、アイデアに触れ、世界には自分と違う人や暮らしがあることを知ってほしい。」そんな想いでつくられています。



こども本の森 中之島



こども本の森 中之島